

2012年3月19日

各 位

積水ハウス株式会社  
代表取締役社長：阿部 俊則  
本社：大阪市北区大淀中1-1-88

\*\*\*\*\*

## 「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ 2012」 千葉大学チームの出展に、積水ハウスが建築協力

\*\*\*\*\*

積水ハウス株式会社は、千葉大学チームの「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ 2012」（以下「本大会」）への出展に協賛し、次世代ソーラー住宅の建築に協力します。

本大会は本年9月にスペインのマドリードで開催され、世界15ヶ国20チームが参加する大学対抗のソーラー住宅の競技大会です。千葉大学チームは日本では唯一、またソーラー・デカスロン開催以来初めて日本からの選出になります。千葉大学チームは本大会において、軒の深い伝統的な日本の建築空間と最先端の環境技術を融合させた次世代型住宅「おもてなしハウス（Omotenashi House）」を出展します。積水ハウスは、千葉大学チームの出展コンセプトに賛同し協賛するとともに、これまで培ってきた環境性能にも優れた高品質な住宅を建築する技術を活かして、次世代ソーラー住宅の建築に協力します。



「おもてなしハウス」建物外観 イメージパース

積水ハウスは現在、「快適性」「経済性」「環境配慮」の3つのメリットを同時に実現する、環境配慮型住宅「グリーンファースト」の販売を積極的に推進しています。このたび建築協力する「おもてなしハウス」には、「グリーンファースト」の特長である耐震性・断熱性など高品質な住宅技術に、瓦一体型太陽光発電パネルなど最先端の環境技術を組み合わせ、さらに緑豊かな外構計画も採用しています。またスペインでの実際の住宅建築にあたっては、積水ハウス及びグループ会社の積和建設が施工の指導を行います。

このたびの千葉大学チームの出展において、そのコンセプトが世界に高く評価され、選考において高位の順位を獲得できるよう、積水ハウスグループの総力を挙げて建築に協力します。

本件に関するお問合せ先  
積水ハウス株式会社 広報部  
(大阪) TEL06-6440-3021 (東京) TEL03-5575-1740

## ■「おもてなしハウス」物件の特長

1. 高品質な住宅技術と最新の環境技術を組み合わせた環境配慮型住宅「グリーンファースト」モデル
  - ・高い耐震性、耐久性、断熱性を実現する日本独自の工業化住宅
  - ・外観とまちなみに調和する「瓦一体型太陽光発電パネル」 (9.96kWh)
  - ・高い断熱性能を持つ「真空複層ガラス」
2. 伝統的な日本の風土と文化を生かした空間設計
  - ・夏の陽射しを遮り、冬の陽射しを取り込む深い軒先
  - ・リビングと縁側との中間領域「スローリビング」の提案
  - ・いぐさ畳の壁や和紙貼りの天井など、自然素材による内装仕上げ
3. 未来世代のための健康的な居住環境の提案
  - ・積水ハウスと千葉大学が産学協同で2007年より研究・開発している「ケミレスタウン・プロジェクト」の成果を活かした化学物質を低減する空気環境の提案
4. 外構計画
  - ・地域の自然と共存する「5本の樹」計画による緑豊かな庭づくり
5. 建物概要
  - ・軽量鉄骨造「Be Sai+e (ビー・サイエ)」 平屋建 63.47㎡



千葉大学内の試作棟

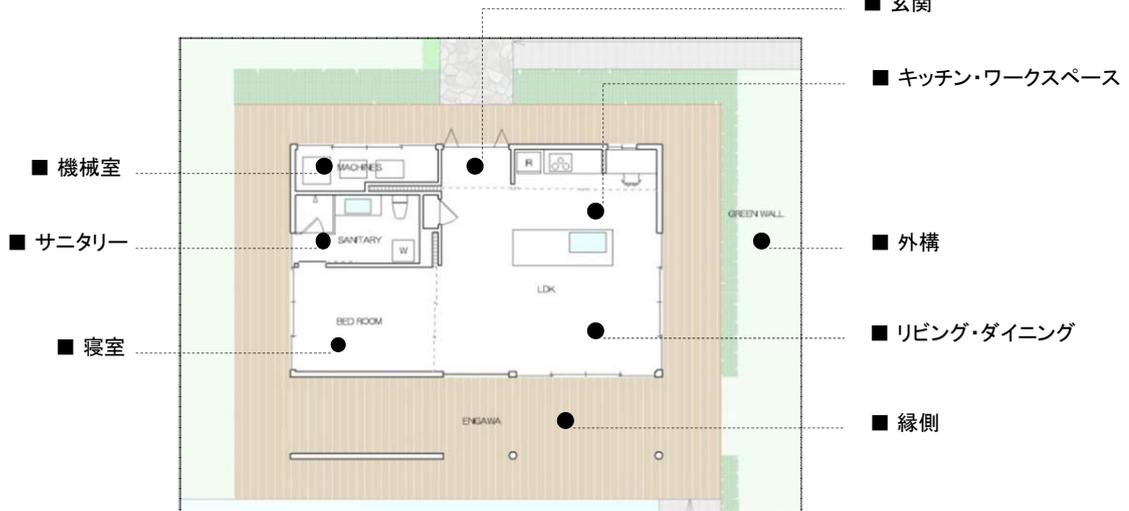


中間領域「スローリビング」



自然素材による内装仕上げ

## ■「おもてなしハウス」プランニング



## ■「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ 2012」について



ソーラー・デカスロンは世界の20の大学チームが太陽光発電システムを搭載した住宅を建築し、総合的な優劣を競う競技大会です。デカスロンとは10種競技という意味であり、本競技においては太陽光発電システムの効率性だけでなくデザイン性・建築的完成度・快適性・持続可能性など計10項目が審査項目になります。この競技の最大の特徴は、プロジェクトの主体が大学生であり、その推進に国の協力や参加企業などを募りプロジェクトがすすめられるという点にあります。2002年の初回開催以降、アメリカにおいて5回、スペインにおいて1回の計6回開催されました。

「ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ 2012」において、競技は2段階で行われ、昨年行われた第1段階で、応募33チームから書類審査で20チームが選出されました。第2段階は、本年9月14日から30日までの期間、スペインのマドリッドにおいて開催され、実際に建築・展示されたソーラー住宅に対して、国際審査団が審査を行いグランプリが決定されます。